

サラトガ本線 (1944)

SARATOGA TRUNK

メディア 映画

ジャンル サスペンス アドベンチャー ロマン스

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 135分

初公開日 1950/03/01

公開情報 セントラル

【解説】

41年に女流作家E・ファーバーが発表したベストセラーの映画化。19世紀末、クリオ（バーグマン）はパリからアメリカに戻って来た。それは名家の娘と結婚させるために母と自分を捨てさせ、凶らずも父までを死なせた一族に恨みを晴らすためだった。名家を誇る家への復讐には多額の資金が必要と、クリオはニューヨーク州の鉄道、サラトガ鉄道の会社の社長で資産家のバートと結婚するためにやって来る。一方そこには、テキサスで牧畜業を営んだ金で亡き父の仇を討つため、クリント（クーパー）もやって来ていた。彼の父を殺したのは、無頼漢を雇い石炭の鉄道輸送を妨害して株の暴落を誘い、サラトガ鉄道の乗っ取りを謀っていた男だった。クリントとバートは、列車妨害を掃討することで手を組む。クリオは、政略結婚とクリントへの愛の板挟みになってしまう……。『誰が為に鐘は鳴る』の監督、主演コンビで、サラトガ本線を舞台に恋と冒険が繰り広げられる。スケールの大きい娯楽超大作だが「誰が為に〜」と比べてテーマが通俗的過ぎ、クーパーに比べ、バーグマンの復讐の考え方が不自然にも見え風格ある作品とは言い難い。血生臭い利権の争いもあってか、既に完成していたにもかかわらず、アメリカでは45年末まで一般公開されなかった。

【クレジット】

監督	サム・ウッド	Sam Wood
製作	ハル・B・ウォリス	Hal B. Wallis
原作	エドナ・ファーバー	Edna Ferber
脚本	ケイシー・ロビンソン	Casey Robinson
撮影	アーネスト・ホーラー	Ernest Haller
音楽	マックス・スタイナー	Max Steiner
出演	イングリッド・バーグマン	Ingrid Bergman
	ゲイリー・クーパー	Gary Cooper
	フローラ・ロブソン	Flora Robson
	ジェリー・オースティン	
	ジョン・ウォーバートン	
	ルイス・ペイン	Louis Payne
	モンテ・ブルー	Monte Blue